

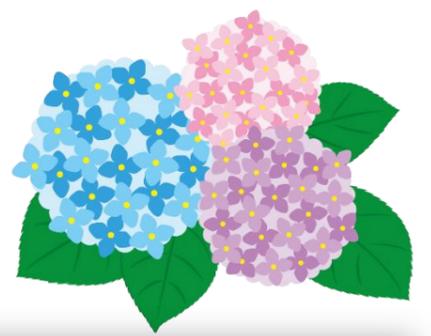


スタートライン



図書部&進路指導部から、進路情報を発信します。

2023年
夏号



☆小論文対策してますか？

図書館には、小論文への取り組みを手助けする本が沢山あります。その中の何冊かを紹介します。

★岩波ブックレット

「はじめの一步、はじめの一冊」をモットーとし、岩波書店から出版されている平均70ページの小冊子。憲法・平和・人権・環境などが主なテーマで、コンパクトにまとめられた知識を増やすのに適した本です。

★「小論文これだけ!」シリーズ

著者は樋口裕一さん。文章の書き方指導の本も含めると100冊以上の著書を出版。このシリーズは、超基礎編に始まり、初めて小論を学ぶ人にわかりやすい本です。その本読み終えた後、看護、教育、経済など、学部別のノウハウ本に進みます。段階を踏んで学べる天高小論文対策人気図書です。

★月刊新聞ダイジェスト

日本国内で発行された新聞(主に全国紙)の記事を集約し、1ヶ月のニュースを1冊にまとめた雑誌です。政治・経済・教育など、項目別にまとめられているので読みやすいです。社説の読み比べもおもしろいです。巻末に今月のキーワード、時事問題、一般教養問題などがあり、公務員試験対策本としても使えます。

★「文藝春秋オピニオン 2023年の論点100」

『ビリギャル』の坪田先生が、小論文対策として、おすすめしている本です。

- ①文章が明晰で、論理的、長さも2400字程度と読みやすい。
- ②旬のテーマを政治・経済から芸能・文化まで幅広く網羅。
- ③読み応えがある文章なので、何度か音読するだけでも、国語力が向上。

★「朝日キーワード 2024」

朝日新聞の記者がポイントをわかりやすく解説。入試小論文、就職試験、資格試験対策にぴったりです。

最後に、小論文対策の一番は、「文章を読むことに慣れる」ことではないでしょうか。書かれた課題文の内容を理解できなければ、自分の考えを論理的に述べることはできません。早いうちから、新聞を読み、読書を身近にしておくことが最も大事な対策だと思います。夏休み、ぜひチャレンジしてください。



「岩波ブックレット」



「月刊新聞ダイジェスト」



「論点」と「キーワード」

図書館からのおすすめ本



『やりたいことが見つからない君へ』
坪田信貴 著
小学館

『ビリギャル』の坪田先生による著書です。「『やりたいことが見つからない』と悩んでいる人、それは自分の人生をよりよいものにしたいと努力している証拠。」、あとがきに書かれていた言葉です。この本は、若いみなさんにエールを送る本ですが、全世代の人にも元気を与えてくれると作品だと思います。坪田先生の夢は、「世界最強のサッカーチームを作ること」だそうです。絶対無理だろうと思われていた目標ですが、「目の前の一人を感動させていく」ことを続けていくと、吉本興業会長だった大崎さんと出会い、2022年から社外取締役役に就任し、今ではサッカーやスタジアムの建設に関わり始めているそうです。私もこの本を読んだ後、以前にあきらめていたことを、もう一度始めてみようと思いました。



『やらかした時にどうするか』
畑村洋太郎 著
筑摩書房

この本のテーマは「失敗学」です。「失敗学」とは、「絶対に失敗しない」ための学問ではなく、失敗した時、気持ちを切り替えて「絶好のチャンス!」と考え、「なぜ失敗したのか」「この失敗から何を学べるか」という事を学ぶことだと書かれています。どんなに注意をしても、人は失敗します。とても落ち込みますよね。そんな時、まずは、「大失敗してしまった自分をつい責めてしまう自分から逃げる。」そして、周りの人に愚痴を言って体内から負の感情を外の世界に排出する。最後においしいものを食べて、「気晴らし」をする。そうしているうちに、エネルギーが回復してゆくのだそうです。畑村先生は、命に関わる実験前には、生徒達に「失敗」した事例をいつも話すそうです。その方が、生徒達はその事例を「自分事」として聞き、同じミスを繰り返さないように最新の注意をはらって、実験に取り組んでくれるそうです。他人がしてしまった「失敗」を自分事として考えるには、経験も必要。過保護になり過ぎて、経験をさせないでいると、自分で何も考えなくなり、これが結局「大失敗」につながるとも書かれてありました。日々の小さな失敗も、経験としてとても大事だということですね。